



環境 Environment

2022年度の環境目標と実績 対象範囲：リコーリース株式会社

2022年度のCO₂排出量削減目標（730t-CO₂）はエコカーの導入により燃費が改善し、ガソリン使用量が減ったものの、営業活動増による電気量・空調使用時間の増加により未達となりました。一方、オフィスの省資源は継続し、廃棄物、紙使用量ともに削減し、目標を達成しました。

環境目的	環境目標	KPI	目標値	2022 年度実績
事業活動における 環境負荷低減	省エネルギーの推進	CO ₂ 排出量	730 t-CO ₂	736t-CO ₂
		電気使用量	660,000 kWh 以下	708,777kwh
		空調使用時間	昼間：76,000 時間 夜間・休日：2,500 時間	昼間：84,499 時間 夜間・休日：2,016 時間
		ガソリン使用量	125 kl 以下	115.9kl
	省資源	燃費改善	20.0 km/ℓ	21.8km/ℓ
		廃棄物量	35 t 以下	31t
3R の推進	リース資産の適切な回収	物件回収率	70 % 以上	68.4%

環境データ

	単位	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	備考(対象範囲、集計方法)
環境関連法令違反	件	0	0	0	0	
CO ₂ 排出量	合計	t-CO ₂	1,689,371	1,432,690	971,115	1,008,152
	スコープ 1	t-CO ₂	379	277	292	276
	スコープ 2	t-CO ₂	590	599	473	189
	スコープ 3	t-CO ₂	1,688,402	1,431,814	970,350	1,007,687
CO ₂ 排出量：原単位	スコープ 1+2		2.92	2.68	2.52	1.56 売上高 10 億円あたり
	スコープ 3		5.08	4.39	3.19	3.37 売上高百万円あたり
廃棄物排出量	t	488.2	348.8	359.0	324.9	RL グループ
廃棄物排出量：原単位		1.47	1.07	1.18	1.09	売上高 10 億円あたり
廃棄物のリサイクル率	%	98.2	95	93.7	92.6	RL 単体
水使用量	m ³	6,671	7,067	5,340	5,160	RL グループ 16 拠点
水使用量：原単位		20.78	21.66	17.57	17.26	売上高 10 億円あたり
紙使用量	万枚	771.8	664.5	525.3	628.5	RL グループ
CO ₂ 排出量 スコープ 3 各カテゴリ の排出量	Cat1	t-CO ₂	1,163,233	906,258	718,140	737,697 RL グループ
	Cat13	t-CO ₂	499,420	490,424	242,071	258,617 RL グループ
リコー製品リース終了 機器のリサイクル率	%	99.8	99.8	99.7	99.8	
リコー製品以外のリース 終了機器リサイクル率	%	83.3	85.9	87.8	88.2	
グリーン購入法適合製 品の導入実績	複写機	%	99.8	98.7	99.5	99.8 複写機のみ
環境関連分野取扱高・ 事業投資額	億円	568	586	480	314	

● 環境会計

当社グループは環境経営を推進していくため、環境会計を算出し、環境保全活動の費用対効果を分析しています。分析結果は環境経営の意思決定等に活用しています。

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日 集計範囲：リコーリース株式会社、テクノレント株式会社、エンプラス株式会社

1 環境保全コスト

(単位：百万円)

分類	2021年度		主な取り組み内容	2022年度	
	環境投資	環境費用		環境投資	環境費用
1. 事業エリア内コスト	9.95	8.41	—	17.81	10.65
(1) 地球環境保全コスト	7.84	6.73	省エネ（パソコン入替、エコカーの導入など）	16.88	9.46
(2) 資源循環コスト	2.11	1.68	省資源化（用紙削減など）	0.93	1.19
2. 上・下流コスト	0.00	446.37	リース終了機器の回収費・処理費など	0.00	503.89
3. 管理活動コスト	0.00	57.97	環境活動コスト、統合報告書の制作費、EMS 審査費用など	0.00	66.39
4. 社会活動コスト	0.00	2.30	緑の募金など	0.00	9.92
5. 環境損傷対応コスト	0.00	0.00	—	0.00	0.00
合計	9.95	515.05	—	17.81	590.85

2 環境保全効果

項目	2021年度	2022年度
	環境負荷削減量	環境負荷削減量
CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	111.90	299.1
NOX排出量 (t)	△ 0.11	0.045
廃棄物最終処分量 (t) (テクノレント除く)	△ 0.31	△ 0.25
用紙削減枚数 (対前年度差：万枚)	67.14	△ 22.19

3 経済効果

(単位：百万円)

分類	2021年度	2022年度	
	金額効果	主な取り組み内容	環境投資
1. 事業エリア内コスト	△ 4.04	—	0.11
(1) 地球環境保全コスト	△ 5.14	省エネ（ガソリン、電気の削減など）	△ 0.56
(2) 資源循環コスト	1.10	省資源化（用紙削減など）	0.67
2. 上・下流コスト	5,751.7	リース終了機器の売却売上など	6,253.7
3. 管理活動コスト	0.00	—	0.00
4. 社会活動コスト	0.00	—	0.00
5. 環境損傷対応コスト	0.00	—	0.00
合計	5,747.7	—	6,253.8

4 環境負荷

項目	2021年度	2022年度
	総量	総量
CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	764.0	464.9
NOX排出量 (t)	1.35	1.31
廃棄物最終処分量 (t) (テクノレント除く)	2.02	2.27
用紙使用量 (万枚)	597.42	619.61
廃棄物排出量 (t)	358.58	320.44
うち、一般廃棄物 (t)	35.14	33.02
うち、産業廃棄物 (t)	323.44	287.42

5 環境経営指標

指標	2021年度	2022年度
環境収益率： $\frac{\text{経済効果}}{\text{環境保全コスト}}$	11.16	10.58

環境会計レビュー

1. 環境保全コスト

エコカー導入による事業エリア内コストの増加、および回収活動の強化によるリース終了機器の回収費用で上・下流コストが増加し、環境費用は前年度比75百万増の590百万となりました。

2. 環境保全効果

営業活動が増えたことで、エネルギー量が増加するも、トラッキング付き非化石証書によって、当社の太陽光発電事業で創出された環境価値を購入し、相殺することで前年比299t-CO₂削減となりました。

3. 経済効果

リース契約終了機器の売却による上・下流の経済効果は、3Rの推進により前年比5億円増加となり、62億53百万円となりました。

4. 環境負荷

リモートワークが進み、在宅率が向上したことや、事務所移転による産業廃棄物排出の特殊要因がなかったことから、廃棄物排出量は前年比38t減の320tとなりました。

5. 環境経営指標

2022年度の環境収益率は3R強化による経済効果増により、前年度並の実績となりました。